

歌、踊り、楽器演奏、紙芝居、マジック等
様々なジャンルの一芸を披露して
くださったボランティアの皆様

ボランティア講座 開催報告

「人生100年時代の ボランティア活動」



平成30年10月25日(木) ぱれっと旭にて
ボランティア27名参加
講師:ダイヤ高齢社会研究財団 さわおかの 澤岡 詩野氏

●講座の内容

健康寿命を伸ばすためには質の良い「つながり」
を持ち続けることが大切。その「つながり」を保つた
ために、①無理をせずゆるやかに ②ただ活動に参加
するのではなく知人を誘ったり当日の手伝いをしたり
など能動的、生産的な参加 ③最期まで という
3つのキーワードが挙げられました。

●参加者からの声

地域社会とのつながりが健康寿命を延ばすこと
は、わかっている「できるかな?」といった不安が
ありましたが、ちょっとのことで良いと聞いて安心し
ました。

地元で自分のできることを楽しく長くマイ
ペースに行っていくことが、大切な居場所
づくりにつながることを学びました!



イベント 開催報告



「旭区サロン連絡会フェスティバル」 ～演芸ボラとサロン ・施設のマッチング会～

平成30年11月9日(金) 二俣川地域ケアプラザにて
出演ボランティア:22組
当日来場者(サロン・施設関係者):81名

地域のサロンを運営される方々から「サロンでの
プログラムを増やしたい」という声があり、旭区生
活支援コーディネーター連絡会および旭区ボラン
ティアセンターの共催で本イベントを企画。当日は、楽
器や歌、体操やマジックなど様々な演芸ボラン
ティアと、サロン運営者、高齢者・障害者施設の担当者の
方々が直接顔を合わせ、話をするこ
とができ、今後の活動の場が広がって
いく取り組みとなりました。



ボランティア保険の受付開始

※平成31年度の各種ボランティア保険の申込書の配布および
受付は平成31年2月18日(月)からです。
※ボランティア活動保険は、年度更新ですので加入漏れのない
ようご注意ください。

旭区ボランティアセンター Tel: 045-392-1133 開館時間: 月～土の9～17時(祝日を除く)

善意銀行に寄付いただいた方々 寄付者一覧(順不同・敬称略)(平成30年8月1日～12月31日)

右の皆さまから善意
銀行へご寄付いた
だきました。ありが
とうございました。

(金品寄付) 旭区ボランティア連絡会/ヘアーメイクファンジョン/内田 忠夫/荻窪 邦昭/ヨガサークル ロータス
横浜ケーブルビジョン株式会社/公益社団法人 神奈川県LPガス協会 横浜旭保土ヶ谷支部/伊藤 志壽江/都岡町内会
一般社団法人 保土ヶ谷青色申告会/横浜旭ライオンズクラブ/旭区子育て広場 ぽけっと/鶴ヶ峰本町町内会婦人部/匿名4件

(物品寄付) 神奈川県厚生生活衛生同業組合旭支部/明るい社会づくり運動旭区協議会

発行 社会福祉法人 横浜市旭区社会福祉協議会

〒241-0022 横浜市旭区鶴ヶ峰1-6-35
TEL:045-392-1123 FAX:045-392-0222
http://www.palietasahi.jp/ 旭区社協



編集 後記

●「いきいき宣言」96号から今回の100号まで各地区広報
委員8名で企画編集を担当いたしました。前半は将来の地
域の担い手「若手世代の活動紹介」、後半は「地域共生社会
の実現に向けての活動紹介」を、広報委員が現場を訪問取
材し各号紙面に掲載紹介しました。

「平成」最後のそして偶然とはいえ「いきいき宣言100号」という
切りのいい号で担当委員としての活動を終えたことは、広報委員全員
忘れることはないでしょう。お忙しい活動中に取材に伺ったにも拘ら
ず、快く対応してくださった地域のボランティアの皆様、地区社協の
皆様、町内会自治会の皆様に感謝申し上げます。(広報委員一同)

広報 委員会

渡邊 敦子(白根)/相澤 明子(川井)/吉田 澄子(上白根)
長谷川 貴子(希望が丘中)/安部 きみ子(希望が丘東)
佐川 三男(万騎が原)/尾野 憲司(二俣川ニュータウン)
中川 士郎(市沢)

あさひ

「この町が好き」と言えるまちづくり

いきいき宣言

<http://www.palietasahi.jp/>



この広報紙は、「赤い羽根」共同募金の
配分金で発行しています。

旭区社協



「共にささげられ
生きていく」

旭区社協は
地域共生社会の実現に向けて
皆さんと一緒に
取り組んでいます。



障害がある・なしに関わらず
誰もが自分の役割を見つけ、
支え合って生きていくことの
大切さを教えてくれた事例を
ご紹介します。

詳しくは中面へ



障害がある・なしに関わらず誰もが自分の役割を見つけ、支え合って生きていく



上白根地区●生活介護事業所「カプカプ」

カプカプーズの魅力を発信！

カプカプでは1997年に開所してからこれまで、喫茶やお菓子作りや洋裁や絵画など、カプカプーズ（利用者）それぞれの特技を生かすための仕事を創出してきました。喫茶も、オバケのマネをして接客する人や寝そべてお客さんを迎える人のいる、「ゆるさ」が売りのお店です。カプカプーズに会うために来店されるお客さまも増え、「〇〇さんがいないとさびしいわ」なんて言ってもらえます。スタッフは、もともと誰にでもあるかけがえのないものを台無しにしてしまうような「邪魔」な指導などはせず、一人ひとりの豊かな個性を存分に発揮してもらええる雰囲気づくりを心がけています。



※生活介護事業所とは、食事・排せつ等の介護や、日常生活上の支援、創作的活動又は生産活動の機会等を提供し支援する場



商店街の真ん中で踊るカプカプ祭りのひとコマ

また、「地域に開く」ことも大切にしている、「困っている人が駆け込めるような、気軽に相談できるような場所」を目指しています。今後は、上白根地区社協の依頼を受けて、高齢者の買い物支援を行う予定です。それも、ただ買ったものを運ぶのではなく、地域の方たちともしっかり繋がれるように。配達するうちに困りごとを話してもらええるような関係になれば、ひかりが丘地域ケアプラザにお繋ぎすることもできるでしょう。地域からお声がかかり、地域の一員として取り組めるのがわたしたちの誇りです。（所長●鈴木 励滋）

白根地区●障害児余暇支援ボランティア

自分ができることを楽しんで

ボランティアの中村 充さん（42）にお聞きました。

中村さんは統合失調症を発症し治療中。症状が落ち着き、精神障害者のための地域活動支援センター「むくどりの家」に通所中。1年前からむくどりの家を通して白根地区で行われている障害児余暇支援事業「なかよし」にボランティアとして参加されています。



Q このボランティアを始めたきっかけは何ですか？

A 作業所のイベント等で地域の方と接する機会が多くあり、地域に根付いたボランティア活動をしたと思っていました。また、人と接することが苦手だったのですが、克服できればなとも思って始めました。

Q ここでの活動はどのようなことをされていますか？

A パンを一緒に作る、イベントに参加するなど、子どもたちと一緒に遊んでいます。

Q この活動をするうえで大切にしていることはありますか？

A 子どもと同じ目線で話すことです。上から目線になってしまうと怖がられます。



今回はみんなでメロンパンを作ります



Q ボランティアを続けるコツはありますか？

A 子どもに対してもそうですが、周りの相手を尊重するということだと思います。そして、ここは私にとってストレス発散の場。自分ができるところを見つけてながら、楽しく参加させてもらっています。

鶴ヶ峰地区●中田カフェ

お互いの強みを生かして

毎月第4火曜日 13:00～15:00
西川島町中田町内会館にて



一方、まどか工房の新倉所長は「地域から声をかけていただきとても嬉しかった。特に喫茶の運営は日頃から慣れていることなので、気負わずできたところも良かった。地域に協力する機会を得て、作業所に来ているメンバーにも役割ができた。メンバーも「ちょっと（「とても」という意味）うれしい!」と話している」とのこと。

接客し、ありがたいと言われる関係が自宅でもない、作業所でもない自分たちの第三の居場所になっており、メンバーの生き生きした表情が印象的でした。



平成30年6月から始まった西川島町中田町内会の中田カフェは地域作業所「まどか工房」の協力で運営しています。町内会の全世帯にアンケートを取ったところ、「多世代が集え、自由に話ができる場所があったらいい」という意見が多く上がりました。そして、場所としては町内会館を活用すればいいが、具体的な運営は難しいという課題がありました。その際、鶴ヶ峰地域ケアプラザより「まどか工房に協力を得ては」という助言を得、お願いしたところ、快諾を得ることができました。「地域でできない部分を協力してもらっている」と藤原会長。



左から藤原会長、新倉所長、高橋生活支援コーディネーター

第11回 旭区地域生活支援フォーラム

だれかの“いいね”になりたくて ～お互いを知ることからはじめよう～

このフォーラムでは今号の特集でご紹介した鶴ヶ峰地区の「中田カフェ」や上白根地区の「高齢者の買い物支援」の実施に至るまでの取り組みが紹介されました。

コーディネーターを務めた東洋大学社会学部高山教授より「高度経済成長期にはお金を稼ぐということが重要

だった。そのため障害者もいかに健常者のようにお金を稼ぐかということに重きを置かれ訓練させられていた。しかし、時代が移りお金だけでは幸せになれない、人と関わることで自分の役割を見つけ、存在こそ価値がある、そこに幸せを感じることが大切だという社会が変わってきた。まさに**地域共生社会**の目指すところである」とお話がありました。



平成30年12月8日（土）旭公会堂

主催：旭区役所

共催：旭区地域自立支援協議会
旭区社会福祉協議会